



# ENSHOW® Newsletter

今月のトピックス：暮らし方の行方

株式会社円昭ホームページ <http://www.enshow.com>

発行人：前田由紀夫 編集人：中村友一

紫陽花の季節です。どこにでもある花ですが、この時期を素敵に演出してくれます。開花が梅雨の時期になるため湿ったイメージがありますが、日々色を変えながら目を楽しませてくれます。また、花の色がよく変わることから、花言葉は「移り気」と付けられているそうです。紫陽花や藪を小庭の別座敷 芭蕉も梅雨空の下、座敷から美しく咲くこの花をみたのでしょうか。さて、いよいよ初夏。夏に負けないために準備開始です。



## ■ 暮らし方の行方（コミュニティー）

不動産には色々な種類がある。宅地のように住宅を建てて居住を目的としたもの。事務所や店舗などの商業利用を目的とするもの。公園や駐車場。これらが機能的に集まって街や都市を構成する。もちろん、農地や牧草地も不動産である。今回は、その不動産の中でも居住するもの、人が暮らす場所における将来を考えてみることにする。

人には様々な価値観がある。こだわりかたも人それぞれだ。利便性の高い都市に暮らす人、自然いっぱいの田舎暮らしに憧れる人。今、ニュータウンは高齢化し、古いマンションは建て替えの時期を迎え、近い将来の行方を模索している。

時間が経てば地域や近所の付き合いも変わってくる。ゆっくりではあるが、時は流れているのだ。我々はそれを認識する必要がある。

人口が減少し、労働力が不足する将来、一人当たりの住空間は広く快適になるとも考えられる。そして、そこに集う皆が共に暮らしてゆくには、個人や家族、そして仲間が空間を共有するコミュニティーが必要かつ重要となる。このコミュニティーはハード部分である箱物だけを考えては成り立たない。最小単位である家族から、個人が出て行ったり、また新たな家族が構成されたりと、時と共に環境の変化は否応なしにやってくる。しかし、暮らす場所、「住まい」はそう簡単に変えられない。その一つの理由に、住宅が非常に高価なものであることが考えられる。多少、個人の生活事情が変わったからと言って簡単に引越したり、買い換えたり住み替えたりするわけにはいかない。また、そこにある建物を壊して建て替

えるには相当なエネルギーが必要となり、環境にも大きな負荷をかける事となる。これでは将来の地球に優しいエコ社会にはなりえない。



誰でも、プライバシーを守り、同じ価値観を持った人々と暮らしたい。人と人との「間合い」がソフトとなる「暮らすことにおけるコミュニティー」が今後、大変かつ重要な課題となる。しかし、日本の住宅事情はあまりにも厳しい。快適に、安全に暮らすためには相当な対価を支払わなければならない。これでは個性やプライバシーをねじ曲げ、そこにある箱物コミュニティーに自分をあわせなくてはならなくなってしまう。衣食足りて礼節を知るといいますが、礼節の前に、住宅ローンに追われ、変わり行く近隣の環境にビクビクし、更には近所づきあいにギクシャクする事になる。

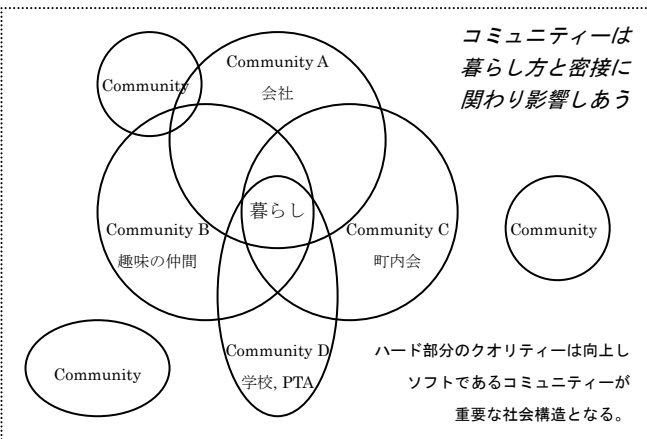
将来、住宅で「暮らすこと」

に最も必要なのはコミュニティーの要素ではないだろうか。先にも述べたが、人が生きてゆくためには、時間と共に場所を変えなくてはならない事情がどうしても付きまとう。これには計画的に工夫された家作り、街づくり、個人としては暮らし方作りなるものが必要となる。住みやすさは価値観で変わる。ただし、場所によって生き方までもが変わってしまうのは大きな問題である。日本の建築物は一つ一つを見ると個性的で素晴らしいものが多いが、集合体となるとその将来が見えていないようにも映る。もっと、ソフト面のコミュニティーを考えるべきである。

土地や建物等の不動産は高価な財産である。簡単に壊すのではなく、永く大切に将来を見据えて活用すべきである。中に入る人間のほうが暮らし方を工夫し自分にあった居心地のよいコミュニティーに移り住んで行けばよいのではなからうか。

せめて、将来暮らすであろう「終の棲み家」くらいは妥協をせず、満足のいくものになりたいと誰もが考える。ただの箱物としての棲み家ではなく、プライバシーの向こう側に暖かいコミュニティーのある空間にしたいものだとその行方を試案する。

前田由紀夫



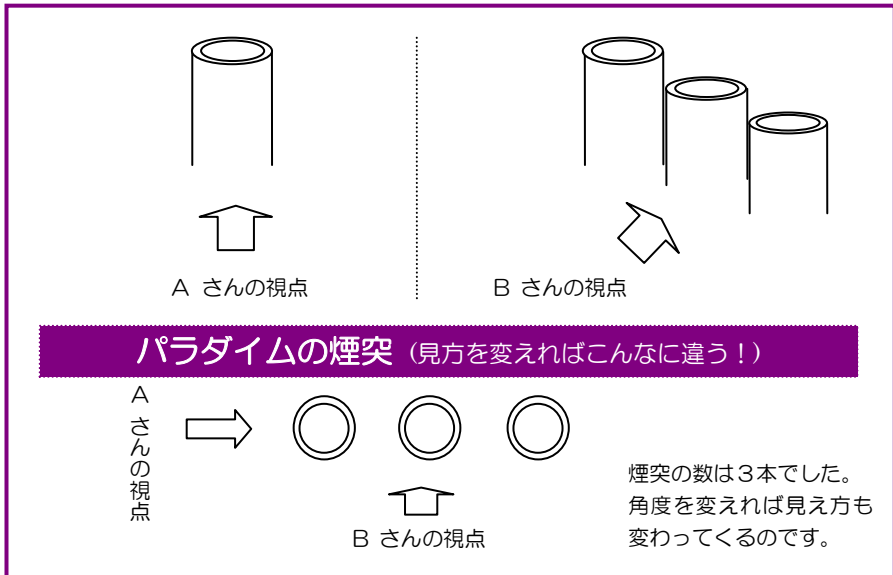
コミュニティー 【community】  
人々が共同体意識を持って共同生活を営む一定の地域、およびその人々の集団。地域社会。共同体。(デイリー新語辞典)

## パラダイムシフト

物の考え方の根本を変えると、違った姿が見えてきます。同じ物事でも「パラダイムシフト」をすることにより、まったく違った可能性を見出すことが出来ます。大変奥深い言葉ですが、ここで簡単にその意味を説明しておきましょう。

自分が気づかないうちに勝手に思い込んでいた事や感覚を一度すっかり捨て去り、違った角度で物事を見ることをはじめます。そもそも、人間、特に大人は「概念」と言うフィルターを通して物を見てしまうようです。

そのフィルターを取り除き、新たな感覚で物を見るのがパラダイムシフトです。簡単な例を挙げてみましょう。Aさんは煙突が一本しか見えません。そしてBさんは三本の煙突が見えるのです。いくら議論したところで、本人たちはその目で確認しているのですから譲ることはありません。【下図】しかし、その視点を変えることに気が付けばお互いが理解しあったり、新しい発見が生まれたりします。少し視点を変え、パラダイムシフトをすれば、無駄な争いは減り、新たな発見、発展が出てきます。概念、思い込みを捨て、角度を変えて物事に取り組んではいかががでしょう。



## 時代 "ing"

プロ野球界では、日本プロ野球史上初となるセ・パ交流戦が行われています。これまでは観ることができなかった対戦が公式戦という真剣勝負で観られるとあって多に盛り上がっているように感じられます。昨年に起こった球団合併、新規参入問題等の一連の騒動の中、これまた史上初のストライキを経て決まった交流戦。選手、球団が、一連の騒動によるファンの野球離れを憂慮し、プロ野球改革の目玉として開催の運びとなりました。これには、昨今の巨人戦視聴率の低迷、入場者の減少等球界の盟主として君臨してきた巨人ブランドの低迷も背景にあると思われる。その昔「巨人、大鵬、玉子焼き」という言葉があったように、その時代の子供たちにとって巨人は最も人気のある球団で、将来なりたいたい職業にプロ野球選手がいつも上位にランクされていました。しかし、時代の流れの中で、現在は人気選手の大リーグへの進出やサッカーに代表されるように他のさまざまなプロスポーツに人気を奪われているのが現状です。「プロ野球改革元年」という言葉もあるようで、これを機にプロ野球界がプロスポーツ界全体の盟主に復活できるよう、これからもさまざまな改革を継続し、「プロ野球は永久に不滅です。」という時代が続いて欲しいと一野球ファンとして願います。

服部義雄

## ホットスポット【名古屋駅前再開発】

99年暮れ名古屋駅前にJRセントラルタワーが竣工、翌春より高島屋、マリOTTホテルが開業しました。新名古屋経済の象徴のように「名古屋

のカたち」が変わって行きます。豊田毎日ビル、名古屋ルーセントタワー、三井ビル南館、東館等の高層ビル（いずれも地上170m以上）が07年

から08年にかけて次々と竣工します。これらのビルの竣工で中部地区最大のオフィスエリアが誕生します。それに伴い、このエリアにはビックカメラ、成城石井、ジュンク堂、マツモトキヨシなどが

進出。更に、この地域と言う枠組みで見れば、セブンイレブン、イオン、ドンキホーテなども進出しています。空港、万博に再開発。これから名古屋経済の真価が問われます。

JRセントラルタワーズ	1999年12月竣工	41万㎡	ツインタワー 高島屋、ホテル
豊田毎日ビル	2006年秋竣工予定	19.8万㎡	トヨタ自動車移転
名古屋ルーセントタワー	2007年4月竣工予定	11.5万㎡	オフィス延べ床面積中部地区最大
三井ビル南館、東館	2008年2月竣工予定	4.9万㎡	モード学院が入居予定



建築中の豊田毎日ビル

他にも、名古屋駅東側には三菱、三井、名鉄等の再開発を必要とするビルが数多くあります。

人として・組織として成長を目指す ENSHOW Corporation が「変化から進化」をモットーに毎月「ENSHOW Newsletter」を発行しております。  
あるときは世界経済の視点で、又あるときは身近な視点で、皆様に関わりやすく情報提供出来ればと思っております。  
同様のメールマガジンも発行しておりますので、ご希望の方は mail@enshow.com までご連絡ください。(メールの内容はテキスト形式となります。)

**株式会社 円 昭**  
〒466-0031  
名古屋市中区和区紅梅町 3-4-2  
TEL : 052-841-2701  
FAX : 052-841-4301  
mail@enshow.com  
http://www.enshow.com